

NO	団 体 名	講 師 氏 名	講 師 職 名 等	テーマ	実 施 日
1	火の国未来づくりネットワーク	①豊重 哲郎 ②志賀 壮史	①やねだん故郷創世塾 塾長 ②NPO法人グリーンシティ福岡 理事	地域づくり・地域づくり組織の重要性	平成30年6月9日(土)
	講 演 内 容			研 修 成 果	
1	①講師の豊重氏からは、やねだん(柳谷)地区のこれまでの取り組みを中心に地域づくり、人づくりの手法、活動資金の確保など、長年の経験から具体的な事例を挙げてお話いただいた。何よりも人との繋がりを大切に、まちづくりの基盤として、安易にボランティアに頼るのではなく、会社経営のように財務強くならなければならぬと教えていただいた。また、他地域とのネットワークの大切さに触れられ、火の国未来づくりネットワークのあり方にもアドバイスをいただいた。			参加者:83人 ①参加者からは、各地域のリーダーとして豊重氏の講演に大変参考になったとの意見のほか、特に各まちづくり団体共通の課題である資金面について、特産品を利用したやねだん(柳谷)地区の課題解決のアイデアに感銘を受けた様子であった。また、オブザーバーとして参加した会員以外の参加者からも講演を聞いて具体的なまちづくりの提案や相談があるなど、建設的な成果につながった講演会であった。	
	②講師の志賀氏をファシリテーターとして、火の国未来づくりネットワークの県内11ブロックの活動報告を行った。参加者は12のグループに別れ、各ブロックの活動報告について感想やアイデアなどを話し合い、意見をまとめたものをポストイットに書き込み掲示した。講師から各ブロックの取り組みについての意見を可視化していただき、大変参考になった。			②これまでの事業報告会では、参加者が報告者の発表を聞くだけの形であったが、熊本県内の各ブロックそれぞれの取り組みについて参加者同士がグループディスカッションを行うことで新しいアイデアや感想を全体で共有することができた。また、普段は交流の少ない他のブロックと交流を図ることができ、参加者同士のネットワークの拡大につながった。	

NO	団 体 名	講 師 氏 名	講 師 職 名 等	テーマ	実 施 日
2	佐賀県地域づくりネットワーク協議会	①福島 健一郎 ②牛島 清豪	①Code for Kanazawa 代表理事 ②Code for Saga 代表	地域づくり×シビックテック ～地域の課題解決は地縁組織と志縁組織の融合～	平成30年6月30日(土)
	講 演 内 容			研 修 成 果	
2	平成29年の講演会では、きらりよじまネットワーク事務局長の高橋氏による講演会を行った。その講演の言葉として「地域を経営するための人材(マネージャー)と活動を支える人材(プレイヤー:若者、ばか者、よそ者、女性)育成は地域住民の出番づくりに関係している。」があった。 今回は、地域づくり活動が盛んな石川県より石川地域づくり協会のコーディネーターである福島氏をお招きしシビックテック(シビック=市民、テック=技術)を通じて能登半島の子育て世代の課題解決に地縁組織と志縁組織(コードフォー)が融合した活動(出番づくり)を行った事例や地域の課題解決に誕生したアプリ「5374(ゴミナシ)」の開発秘話を伺った。また佐賀県でコードフォーの活動をされている牛島氏からは、県から提供されたオープンデータを利用した交通事故減少に向けた取組の紹介が行われた。 対談では、シビックテックについて深掘りが行われ、札幌市の「さっぽろ保育園マップ」や生駒市の「4919(食育) for Ikoma」が紹介された。			参加者:35人 今回の講演の意図としては、これまで加入している世代だけでなく若い世代にもこの「佐賀県地域づくりネットワーク協議会」を知ってもらうことであった。興味を示してもらうよう「シビックテック」を題材にしたのだが残念ながら思ったほど若い世代の参加はなかった。ただ今回は県の地方創生関係の部署および環境関係の部署にも広報を依頼したので、県協議会の認知につながったと思われる。 そして閉会後には、既加入の団体から講師の牛島(Code for Saga)氏に「一緒にやりましょう」と声掛けがあったのは、地縁組織と志縁組織の融合に向けての成果があったようである。	

NO	団 体 名	講 師 氏 名	講 師 職 名 等	テーマ	実 施 日
3	群馬県地域づくり協議会	岡崎 正信	株式会社オガール 代表取締役	公を助ける民—公民連携事業—	平成30年7月2日(月)
	講 演 内 容			研 修 成 果	
3	岡崎講師は、岩手県紫波町(しわちよう)が進める「オガールプロジェクト」のキーパーソンとして、紫波町の公民連携事業を企画推進している。国の補助金に頼らない公民連携の地方創生モデルとして注目されている。岩手県紫波町で行われているオガールプロジェクトをモデルに、公民一体となって手掛けている地域づくりと公民合築施設について講演をいただいた。 補助金をあてにした開発は、維持費や稼働率の見積もりが甘くなりがちで、空きテナントがでることや財政負担となり失敗するケースが多かった。オガールプロジェクトは、テナントの先付により見込み収入を計算し、そこから逆算して建築・維持費を出している。民間から融資を受け、厳しい審査を受けることで、施設の集客率を高め、そこから得る収益を維持管理費に充てるにとどまらず収益の生める公共施設を実現した。			参加者:110人 オガールプラザの公共施設部分では、図書館や町民による勉強会、セミナーが行われ、使いやすく集まりやすい公共施設が集客装置となり、安定した交流人口が生まれている。「地形」と「水」に着目した町歩きによる地域の魅力や地域資源を発見する手法を分かりやすく学ぶことが出来た。特に、仙台的事例は、地元住民も知らなかった四谷用水という地域資源の発掘につながった事例であった。 また、参加者へのアンケートを実施したところ、満足度は高く、「非常に示唆の多い有意義な講演」、「見方を考えさせられた」、「全ての言葉に説得力があって、興味深い話であった」等の多くの感想が寄せられた。 本講演会を通して、「地域づくり」「まちづくり」は公が主導するものではなく、又、民が主導するものでもなく、公は経営的な視点を持って持続できる公共施設を目指すこと、民は真剣に自らのまちを考え関わることである実感した参加者が多かった。また公民連携事業への関心の高まりから、さらに活発な地域活動の展開が期待できる。	

NO	団 体 名	講 師 氏 名	講 師 職 名 等	テ マ	実 施 日
4	地域づくりネットワーク長野県協議会	①瀧内 貴 ②犬飼 ももこ ③石坂 花菜 ④中澤 和彦 ⑤松林 聖子 ⑥和田 春美 ⑦風間 美佐子 ⑧堀内 太一 ⑨古畑 真規子 ⑩西田 靖 ⑪宮澤 秀幸 ⑫白澤 章子	①CSI地域コーディネーター ②・③長野県短期大学「プロジェクト信州」 ④NPO法人まちづくりネット千曲社 中 代表 ⑤～⑦あん姫のうた制作実行委員会 ⑧治田公園桜再生プロジェクト実行委員会 ⑨鬼無里住民自治協議会 福祉ワーカー ⑩地域おこし協力隊OB信州長野野森のくまさん ⑪長沼公民館 館長 ⑫川中島の保健室 代表	やまびこフォーラム2018in須坂「須坂発 町並みから地域づくり」	平成30年11月10日 (土)
		講 演 内 容			研 修 成 果
	参加者が3つのテーマに分かれ、各テーマ3組のプレゼンターから事例発表の後、コーディネーターを交えて意見交換を行った。グループ1のテーマ「若者・学生とまちをつなぐ」では、学生時代にまちづくりにかかわった市役所の職員、地域のまちづくりにかかわっている高校生、サークル活動でまちづくりを行っている学生から事例発表があった。グループ2のテーマ「行政との協働」では、ご当地キャラクターの知名度向上に取り組み団体や公園の桜の修復に取り組んでいる団体、住民自治協議会が行っている福祉事業の取り組み、地域おこし協力隊員の取り組みについて、行政との協働のあり方を踏まえて事例発表があった。グループ3のテーマ「学びと自治」では、地域住民が地域の史跡や文化財を見つけ、活用方法を考える取り組み、公民館での活動、保健室の先生だった経験を地域で活かしている事例について事例発表があった。 ＜蔵の町並み見学会＞ テーマ別事例研究に先立って、蔵の町並み見学会を行った。須坂市は「蔵のまち須坂」と言われるように、蔵の町並みを町づくりの柱としている。明治から昭和初期にかけて近代製糸業によって繁栄し、今も豪壮な土蔵造りの旧製糸家建物や繁盛した大壁造りの屋簷などの町並みが残されている。県内各地からの参加者は案内人の先導による蔵の町並みを見学した。			参加者：120人 地域づくりネットワーク長野県協議会の会員、地域おこし協力隊員、行政の関係者など、参加者120名それぞれが3つのテーマの中から興味のあるものを選び活発な意見交換を行った。コーディネーターの進行により、プレゼンターの発表による地域づくりへの取り組みや考え方に加え、参加者からの多くの意見を聞く事ができ、地域づくりへの関心が高まった。各グループに分かれての事例研究の後には、事例研究のまとめとして、参加者全員が一つの会場に集い報告会を行い、県内各地から参集した参加者が、各グループの報告とコーディネーターのコメントを聞き、意見交換する中でお互いに刺激し合い新たな気付きを得ることができた。このやまびこフォーラムを毎年開催することで、町づくりへの関心が高まっていくことを期待している。	

NO	団 体 名	講 師 氏 名	講 師 職 名 等	テ マ	実 施 日
5	愛媛県ふるさとづくりネットワーク 推進会議	伊 東 豊雄	株式会社伊東豊雄建築設計事務所 代表取締役	第4 1回地域政策研究セミナー「地域が輝く ために」	平成30年12月1日 (土)
	講 演 内 容			研 修 成 果	
	今回開催した「地域政策研究セミナー」は、愛媛県ふるさとづくりネットワーク推進会議事務局である(公財) えひめ地域政策研究センターが、財団設立以来開催している地域課題解決型のセミナーであり、今回で第41回を迎えた。 今回のセミナーは、建築家の伊東豊雄氏を招き、「地域が輝くために」と題し講演を行っていただき、地域活性化について考える機会となった。第1部では、上記フォーマにて、伊東氏が愛媛県今治市大三島で手掛ける「日本一美しい島大三島プロジェクト」を中心に講演いただいた。大三島の住民達の交流拠点となる、空き建物を活用した「みんなの家」の取組みなど、空き家や耕作放棄地を地域の資源と捉え、活用している事例を発表していただいた。 第2部では、愛媛県内外で地域活性化に取り組んでいる方々にご登壇いただくと共に、伊東氏もコメンテーターとして参加し、「地域資源を活かした地域活性化」というテーマでパネルディスカッションを行った。			参加者:112人 当セミナーの参加者は、自治体職員や地域づくりに取り組む関係者などであった。人口減少が社会問題として取り上げられる中、今回講演のテーマとなった大三島では移住者が増えており、著名な建築家である伊東氏が手掛けている地域活性化プロジェクトということも相まって、聴講者は非常に熱心に聞き入っていた。 パネルディスカッションでは、その場で会場から質問を集め回答するなど、参加者と登壇者がコミュニケーションを図る場も用意され、参加者も自分の活動にあてはめて課題や解決策を共有しており、「伊東氏が大三島のため、次世代のために努力している姿に心を打たれた」「他の地域でも開催してほしい」などの声が聞かれた。 また、その後開催した交流会でも、団体の枠を超えて交流を深めることができ、今後へ繋がるアドバイスを得ると共に、新たなネットワークの構築へと繋がる大変有意義な研修会となった。	

NO	団 体 名	講 師 氏 名	講 師 職 名 等	テーマ	実 施 日
6	愛知県地域づくり団体交流協議会	飯倉 清太	特定非営利活動法人NPOサプライズ 代表理事	アイデアをカタチに変えるまちづくり	平成31年1月22日 (火)
	講 演 内 容			研 修 成 果	
	「アイデアは行動をしてカタチになる」をコンセプトに、斬新なアイデアで、幅広い分野において地域づくりを実践し、多くの人を巻き込んだムーブメントを起こす特定非営利活動法人NPOサプライズ(静岡県伊豆市)の代表理事 飯倉清太氏をお迎えし、その経験談を交えながら、下記の内容についてご講演いただいた。 ・自分事と捉えればできることは多くある。 ・すべては小さな行動から始まる。考えていてもダメで、速やかに行動し、修正することが大事。「d」PDCAを勧める。 ・アイデアは「利他思考」から生まれる。 ・協働は「集めて・編むこと」が求められる。強みとなることを出し合ってチームで取り組むことが大切。 ・継続が大切。1,000人が1回集まるイベントよりも10人が100回集まる文化を作ったほうが良い。			参加者:91人 参加者のアンケートでは、83.9%が「大変参考となった」と回答し、16.1%が「参考となった」と回答しており、実体験に基づいた講演の内容は、参加者にとって有益なものであったと考える。 特に「まずは行動する」という点に共感する参加者が多く、講演を通じて、地域づくりの活動へのモチベーションを高める結果となったと思われる。 また、10人が100回集まる文化を作った具体的な協働の事例を丁寧に説明していただいた。地域の担い手の発掘・育成に苦慮している地域づくり団体も多くあり、今後の活動継続の参考となる内容であったと考える。	